



今月の特集関連本



感染症レジデントマニュアル

第2版

藤本卓司＝著

本体 4,500 円＋税／B6 変判・496 頁／医学書院／2013

本特集の執筆者・藤本卓司先生 (p.874) による名著、待望の第2版。日々の臨床でそのつど役に立つのはもちろん、通読できる／通読すべきマニュアル本。まさに“カリスマ本”です。

レジデントが直面する感染症に対し、まさに即、診療で役立つ知識をまとめたマニュアル。いつどうやって起炎菌を判断し、抗菌薬は何をどのくらい使うのか？ 使うにあたっての注意事項は？ 変更・終了の規準は？ 曖昧な判断で漫然と使われがちな抗菌薬を正しく使うための知識と、国際標準に即した考え方等々、著者のノウハウが満載。臨床現場で活躍する若手医師からベテラン医師まで、広くお勧めする“感染症の定本”。



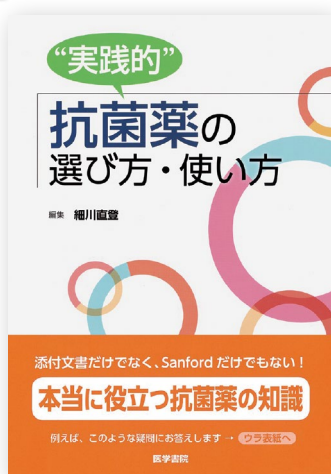
誰も教えてくれなかった「風邪」の診かた 重篤な疾患を見極める！

岸田直樹＝著

本体 3,200 円＋税／A5 判・192 頁／医学書院／2012

新進気鋭の感染症医・岸田直樹先生 (Sapporo Medical Academy) の「目からうろこ」のスーパーレクチャー。実は、本誌の前身『JIM』での連載「風邪の総合診療」をまとめたもの。本特集の徳田安春先生ご執筆 (p.878) と併せて読みたい。

プライマリ・ケア現場には、多くの患者が「風邪」を主訴にやってくる。しかし「風邪症状」は多彩であり、そこに重篤な疾患が隠れていることは稀ではない。本書では、「風邪」の基本的な診かたから、患者が「風邪症状」を主訴として受診するさまざまな疾患（感染性疾患から非感染性疾患まで）の診かたのコツや当面の治療までを、わかりやすく解説した。



“実践的” 抗菌薬の選び方・使い方

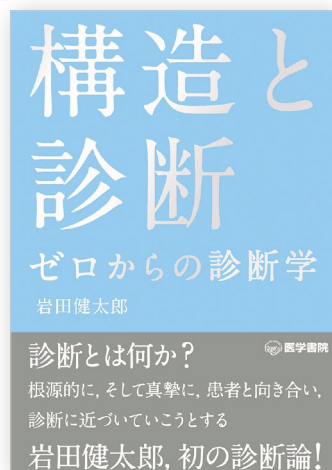
細川直登＝編

本体 3,300 円＋税／A5 判・236 頁／医学書院／2014

抗菌薬の選び方・実践的な使い方をユニークな構成で解説。はじめに起因菌・薬剤の構造・投与経路別に抗菌薬の基礎知識が、次にスペクトラムが重なる抗菌薬の特徴を比べてその違いに注目しながら使い分けのポイントが、わかりやすくまとめられている。添付文書の適応菌種と適応疾患の羅列を鵜呑みにしない、抗菌薬選択の根拠、使い分けも丁寧に解説。感染症診療に携わるすべての人にお勧めしたい。



今月の特集関連本

**構造と診断****ゼロからの診断学**

岩田健太郎＝著

本体 2,500 円＋税／A5 判・218 頁／医学書院／2012

本特集の執筆者・岩田健太郎先生 (p.881) による「初の診断論」。『感染症外来の事件簿』(2006)、『感染症外来の帰還』(2010)、『感染症のコントラバース——臨床上のリアルな問題の多くは即答できない』(2011) も併せて読みたい(いずれも医学書院)。

「病気を診断することについて、深く考えてみるのが本書の目的である」。この書き出しで始まる本書を手にする読者には、難解きわまる診断学論を期待する向きもあるだろう。しかし、読み進めるうちに気づくのは、「古今東西の叡智を援用しつつ、そこで著者が語るのは、臨床という名の戦場を『診断』という陥穽にはまらずに、患者とともに生き抜く戦略だ」ということである。著者初、ユニークなサバイバル診断論! 「診断」という罠を知り、次の一手を考える。